

雑記抄

糸の字遊

霜月の 去年の今年の 庭の菊 (多香緒) を窓越しに、新聞を拵げたり、テレビに気付いたり、そして「そうだな」と字典の細字とにらめっこしたりする「菊の花十一月」の此の頃。

絆 (はん、きずな・ほだし) : NHK朝ドラ「だんだん」の主題歌 (縁の糸) の「時に愛して 時には泣いて やがて固い絆へと…」という歌詞にすっかり惚れ込んでしまった。

元来は馬をつなぎとめるツ。ナの絆繋から転じて人や物をつなぎとめる絆となり、家族や友人などの結びつきを離れがたくつなぎとめている情的なものへと変わったという。

また、「手かせ足かせ」の絆は束縛するニュアンスが強く、人情にからまれて、自分の考えとは違う言動をとり、情にひかされて自由を束縛 (情に絆される) されることもいう。

因みに、源氏物語の夕霧六の

「長き絆となりなむ」とは未来永劫に成仏できない束縛を意味するから、心や物との絆とは関係・感覚・環境などの条件や因果によって異なるといえる。

綻 (たん・ほころび

・ほころぶ) : 日記

がわり (勝手な言

いぐさ) のスク

ラップで、布施

晶子札幌学院

大学長 (家族

社会学) の「リ

スク社会」によ

れば、過日のシン

ポジウムでリスク社

会に応答して「求められ

る社会福祉の未来像」というテ

ーマのもとに、

①「安心・安全なまちづくり」と

「監視・管理社会」のパラドック

ス (逆説、一見矛盾しているよう

で、実は正しい説) に内包するリ

スク (危険・損害を受ける)

②食品偽装・倒産・失業・医療ミ



スなど日々の生活に潜むリスク

③格差の固定化・貧困と福祉コストの上昇さらに社会保険の綻びなど悪化する経済環境が結果するリスク

④外国人労働者に象徴される、社会的排除にさらされる存在が蒙るリスク

等々の現状が詳らかにされた (以上、道新・魚眼図9・30 (火)

(夕) 登載の要約)。

やや固い引用とはな

ったものの、③の

「綻び」が目につ

いたのである。

綻びとは、縫

い糸が切れて

合わせ目が開

いて解けること

であり、破綻で

あるが、葉や花の

つぼみが綻んで少し

開き、また、合格の知ら

せで顔が綻ぶなどと喜ばしい表

情、笑いにも。

因みに、③の綻びは正に破綻そ

のものといえよう。昨今のアメリ

力金融危機は世界経済恐慌へと拡大し、国内では生保各社が直接影響を受け、加えて社会保険庁の年金問題などと、綻開よりも綻裂の

リスク社会なのである。

セーターの 綻びと母 万華鏡

(夢つ美) から、人待ちの。そつ

と綻ぶ 猫柳 (枯舟) へと旬の味

を暮らしの中に綻ばせたいが、さて。

給 (きゆう、たまう・たす) :

繭の糸をすばやくつなぐ意を表して、

①たす・たりる・つぎたす (補給

②あたえる・くばる (供給・配給

③たまう (賞を給う)

④てあて (給与・給料・月給)

⑤せわをする (給待・給事)

などと多種多様な延長義 (引伸ともいつて、もともとの意義が引き

伸ばされて別の意味に拡張される) であるというのが「給」である。

因みに、給足とは正に自給自足

であり、地産地消の原則とする識

者も。いわゆる一村一品運動や特

産物直売など、「はじめに給足あり」で、余分・余裕・余力が次の

ステップとも。

ともあれ、心の絆は固く、ふく

らみを綻ばす住民は健やかで、さ

らに住み良い町の給足に値する行

財政の確かさが。さて、町の風

はどうだろうか。

(前) 中央分館長

尾池 隆 男